

平成 29 年度 第 2 回脊髄モニタリングワーキンググループ 議事録

日 時：平成 29 年 5 月 19 日（金） 7:00～8:00

会 場：仙台国際センター会議棟 第 8 会議室

出席者：谷俊一アドバイザー、松山幸弘、安藤宗治、和田簡一郎、今釜史郎、寒竹司、吉田剛、川端茂徳、藤原靖、山田圭、山本直也、高橋雅人各委員、喜安克仁（田所伸郎委員の代理）、安田明正（中村雅也委員の代理）、小林和克、原田崇弘アドバイザー

以上 16 名

議題 1 2016 年度 多施設研究統計結果

2016 年 4 月～2017 年 3 月末までの症例 435 例の内訳、モニタリング結果および 2010 年度よりの累計 2867 例の結果について詳細な報告があった。

議題 2 モニタリング多施設研究の論文化

投稿前に共著者全員に内容に関して同意を得ることを徹底する。論文化の際には multimodal monitoring での検討を行う方向が望ましい。モニタリングの安全性についても検討する。症例の匿名化や今後のデータ収集の方法については今後も検討を行う。

議題 3 脊髄モニタリング症例検討

名古屋大学、久留米大学、東京医科歯科大学、東京女子医大、弘前大学、杏林大学、高知大学、浜松医科大学、の要検討（Rescue 症例）15 例の障害診断と対応方法を検討した。

中でも電位が術中に低下した際に intervention を加え、電位が回復し術後神経障害をきたさなかった症例はモニタリングが最も役に立ったことを示すものであり、true negative 中の rescue 症例に分類されるべきである。今後一律に alarm point をコントロール波形に比し 30%以上の低下としていくかの検討が必要である。

議題 4 厚生労働省靱帯骨化症研究班との共同研究

頸椎、胸椎 OPLL に関して波形データの収集と提出方法について川端委員より報告があった。

議題 5 本年度のモニタリングセミナーの案内

次回 2018 年 2 月 9 日 19 時より東京ステーションカンファランス（脊髄機能診断研究会前日）においてワーキンググループ開催予定
議題

- 1 2017年度ハンズオンセミナー結果
- 2 厚生労働省靭帯骨化症研究班との共同研究
- 3 2016年度 TP 症例の検討
- 4 論文化について

以上